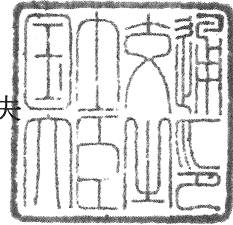


認定書

国住参建第 3787 号
令和 4 年 3 月 25 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永作 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PC030BE-4029
2. 認定をした構造方法等の名称
化粧窯業系サイディング・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板表張/
木製軸組造外壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別添

1. 構造名

化粧窯業系サイディング・ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板表張/木製軸組造外壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項	目	製 品 仕 様
① 外 装 材	化粧窯業系サイ ディング	規格：JIS A 5422 組成(質量%)：a 又は b のいずれかによる。 a. 中実品 けい酸カルシウム硬化物 65～86 有機質繊維 1～13 (セルロース繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリプロピレン繊維等) 無機質繊維 4 未満 (ガラス繊維、ロックウール繊維等) 有機質混和材 14 未満 (リグニン、メチルセルロース、撥水剤等) 無機質混和材 27 未満 (パーライト、炭酸カルシウム、マイカ等) b. 中空品 けい酸カルシウム硬化物 65～86 有機質繊維 1～6 (セルロース繊維、ポリビニルアルコール繊維、ポリプロピレン繊維等) 無機質繊維 4 未満 (ガラス繊維、ロックウール繊維等) 有機質混和材 0～3 (リグニン、メチルセルロース、撥水剤等) 無機質混和材 0～26 (パーライト、炭酸カルシウム、マイカ等) 化粧仕様 塗料の種類 アクリル樹脂系塗料、アクリルウレタン樹脂系塗料、アクリルシリコン樹脂 系塗料、フッ素樹脂系塗料、エポキシ樹脂系塗料、無機質系塗料 塗布量(g/m ²)：200 以下(有機固形分量) 密度(g/cm ³)：1.1(±0.2)(化粧を含む) 表面の形状：平滑又はエンボス・溝模様 端部形状(サイディング相互の重なりと隙間) 重なり(mm)：9 以上 隙間(mm)：3 以下 厚さ(mm)：a 又は b のいずれかによる。 a. 中実品 15(±1.2)～26(±2.0) b. 中空品 18(±1.4)～26(±2.0)

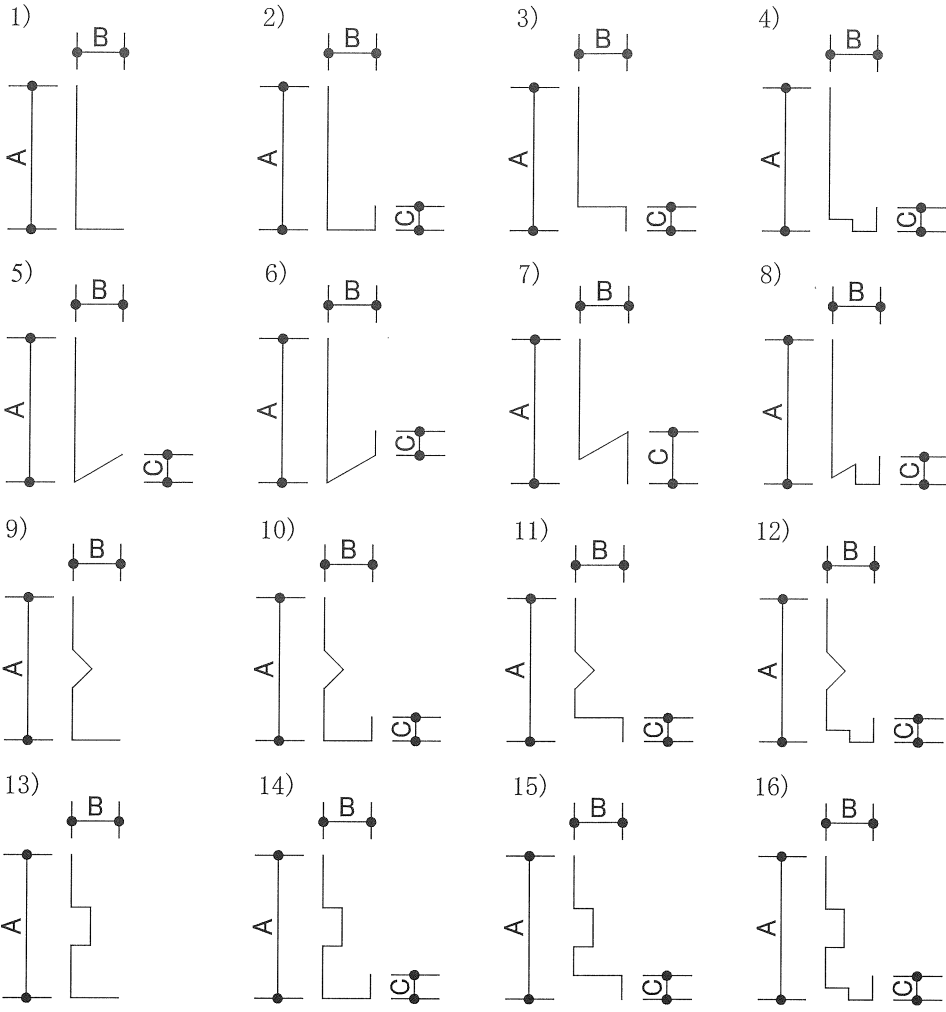
つづく

つづき

項 目	製 品 仕 様
① 外 装 材	<p>化粧窯業系サイディング</p> <p>大きさ(mm) 働き幅：300(±1)～500(±1) 長さ：3,640(±1)以下 (大きさは一般部における寸法を示す。)</p> <p>断面形状 最小厚さ(mm)：11以上 エンボス又は溝模様の容積欠損率(%)：11以下 (サイディング全体積(合いじゃくり部を除く)に対するサイディング裏面から15mm以下のエンボス又は溝の欠損容積の割合) 中空率(%)：34以下 (但し、板厚18mmを超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増し、中空率を上げることができる)</p> <p>張方：縦張 取付け工法：a又はbのいずれかによる。 a. 外装材留金具工法 b. 胴縁併用外装材留金具工法</p>
外装下張材	<p>種類、規格等：aからdのいずれかによる。</p> <p>a. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：難燃材料認定番号 RM-0059 形状：平板 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5(±0.95) 密度(g/cm³)：0.73(±0.07)</p> <p>b. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0954-1 形状及び端部の形状は前記のaに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95) 密度(g/cm³)：0.8(±0.08)</p> <p>c. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 規格：準不燃材料認定番号 QM-0955-1 形状、端部の形状及び密度は前記のbに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25)</p> <p>d. 両面ボード用原紙張せっこう板 規格：不燃材料認定番号 NM-4127 形状及び端部の形状は前記のaに同じ。 厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) 密度(g/cm³)：1.0(±0.1)</p> <p>横目地数：1本(1列)(あり又はなし) (横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が3,000mm以下の場合における本数(列数)を示す。)</p>

項 目	製 品 仕 様
② 木 製 下 地 材	種類：a から d のいずれかによる。 a. 構造用集成材 (JAS) b. 構造用製材 (JAS) c. 構造用単板積層材 (JAS) d. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法 (mm)：105 以上×105 以上 密度 (g/cm ³)：0.36 (±0.06) 以上 欠込み幅 (mm)：14 (±1.4) 以下 欠込み深さ (mm)：25 (±2.5) 以下 取付け間隔 (mm) 柱と間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。)
中間柱	種類：a から e のいずれかによる。 a. 構造用製材、造作用製材又は下地用製材 (JAS) b. 構造用集成材又は造作用集成材 (JAS) c. 構造用単板積層材又は造作用単板積層材 (JAS) d. 枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材 (JAS) e. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法 (mm)：45 以上×60 以上 取付け間隔 (mm) 中間柱と間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。) 中間柱と柱の間隔、又は間柱を介する場合の中間柱相互の間隔：1,000 (±100) 以下 (一般部における寸法を示す。)
間柱	種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法 (mm)：27 以上×60 以上 取付け間隔 (mm) 間柱と柱又は中間柱の間隔：500 (±50) 以下 (一般部における寸法を示す。)

項 目	製 品 仕 様
③ 副構成材料 胴縁(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に用いる。)	仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合) 種類：a から i のいずれかによる。 a. 製材(無等級材又は JAS) b. 集成材(無等級材又は JAS) c. 構造用合板(JAS) d. 化粧ばり構造用合板(JAS) e. 普通合板(JAS) f. 構造用パネル(JAS) g. 単板積層材(JAS) h. パーティクルボード(JIS A 5908) i. MDF(JIS A 5905) 断面寸法(mm)：12(±1.2)以上×40(±4)以上 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
補強用胴縁(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：前記の胴縁に同じ。 断面寸法(mm)：5(±0.5)以上×40(±4)以上 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
受材及び補強用下地材(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27(±2.7)以上×27(±2.7)以上
防水紙防水紙(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：a から f のいずれかによる。 a. 透湿防水シート(JIS A 6111) b. ポリエチレン樹脂系 c. ポリエステル樹脂系 d. ポリプロピレン樹脂系 e. b～d の組み合わせ f. a～e にアルミニウム表面処理を施したもの 厚さ(mm)：0.5(±0.05)以下
外装材留金具	種類：a から f のいずれかによる。 a. 冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) b. 熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) c. 溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) d. 塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) e. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) f. 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) g. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) h. 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) i. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) j. ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) 厚さ(mm)：0.8(±0.08)以上 寸法(mm)：幅 40(±4)以上、高さ 40(±4)以上(幅と高さの合計 90(±9)以上) 上部と下部のツメの総掛かり代面積(mm ²)：170.7(±17)以上 留付け間隔(mm)：鉛直方向；500(±50)以下 水平方向；外装材の働き幅に応じた間隔以下

項 目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料 スターター	<p>材料名：鋼製又はステンレス鋼製 厚さ(mm)：0.8(±0.08)以上 形状及び寸法(mm)：形状は 1) から 16) のいずれかによる(各種リブ付、穴付を含む)。</p>  <p>A : 30(±3)以上、B : 10(±1)以上、C : 1(±0.1)以上</p>
スペーサー(必要に応じて取付ける。)	<p>仕様：あり又はなし 種類：a から h のいずれかによる。 a. ポリプロピレン b. ポリエチレン c. ポリエステル d. ゴム系 e. 木製 f. 繊維強化セメント板 g. 繊維板 h. せっこう板</p> <p>寸法(mm)：幅 50(±5)以下、長さ 150(±15)以下 使用量(g)：1箇所あたり 10(±1)以下 取付け間隔：外装材の働き幅に応じた間隔以上</p>

項 目	製 品 仕 様
③ 副構成材料	<p>外装下張材の目地処理材(必要に応じて処理する。)</p> <p>仕様：あり又はなし 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m)：10(±1)以上</p>
留付け材	<p>外装材留金具固定用</p> <p>種類及び寸法：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製スクリークぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上</p> <p>c. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上</p> <p>留付け本数：外装材留め金具1個につき1本以上</p> <p>外装材固定用</p> <p>仕様：あり又はなし(必要に応じて使用する。)</p> <p>種類及び寸法：a から c のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製スクリークぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上</p> <p>c. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上</p> <p>留付け間隔(mm)：3,000(±300)以下(外装材1枚につき1本以上)</p> <p>スターター固定用</p> <p>種類：鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L20(±2)以上 留付け間隔(mm)：1,500(±150)以下</p> <p>外装下張材固定用</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上</p> <p>留付け間隔(mm)：200(±20)以下</p> <p>胴縁固定用</p> <p>仕様：1) 又は 2)</p> <p>1) なし</p> <p>2) あり(胴縁を用いる場合)</p> <p>種類及び寸法：a 又は b のいずれかによる。</p> <p>a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上</p> <p>b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上</p> <p>留付け間隔(mm)：500(±50)以下</p>

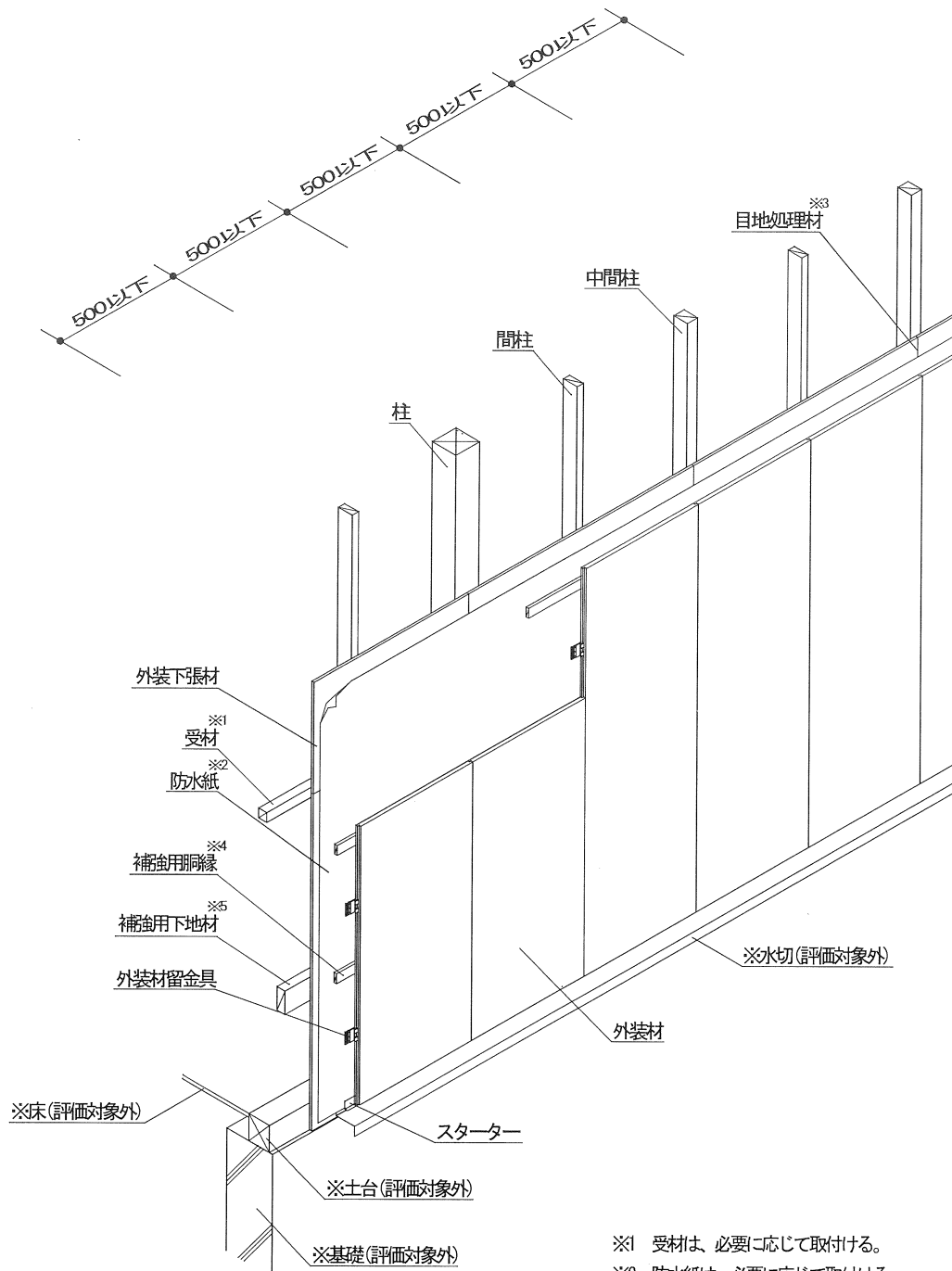
項	目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料	留付け材	<p>補強用胴縁固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(補強用胴縁を用いる場合) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.7(\pm 0.2)$以上$\times L25(\pm 2.5)$以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 2.1(\pm 0.2)$以上$\times L25(\pm 2.5)$以上 留付け間隔(mm)：3,000(± 300)以下</p> <p>受材固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(受材を用いる場合) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a. 鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：$\phi 1.8(\pm 0.2)$以上$\times L32(\pm 3.2)$以上 b. 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：$\phi 3.0(\pm 0.3)$以上$\times L32(\pm 3.2)$以上 留付け本数：片側1本以上</p> <p>補強用下地材固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(補強用下地材を用いる場合) 種類及び寸法：前記の受材固定用に同じ。 留付け本数：片側1本以上</p> <p>防水紙仮留め用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(防水紙を用いる場合) 種類及び仕様：aからcのいずれかによる。 a. ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ$0.5(\pm 0.1)$以下、幅$50(\pm 5)$以下 貼付け間隔(mm)：$455(\pm 45.5)$以上 b. スプレーのり 塗布量(g/m)：$30(\pm 3)$以下 塗布間隔(mm)：$455(\pm 45.5)$以上 c. ステープル 寸法(mm)：幅$10(\pm 1)$以上、長さ$6(\pm 1)$以上</p>

4. 構造説明図

(1) 外装材留金具工法仕様

①透視図（屋外側）

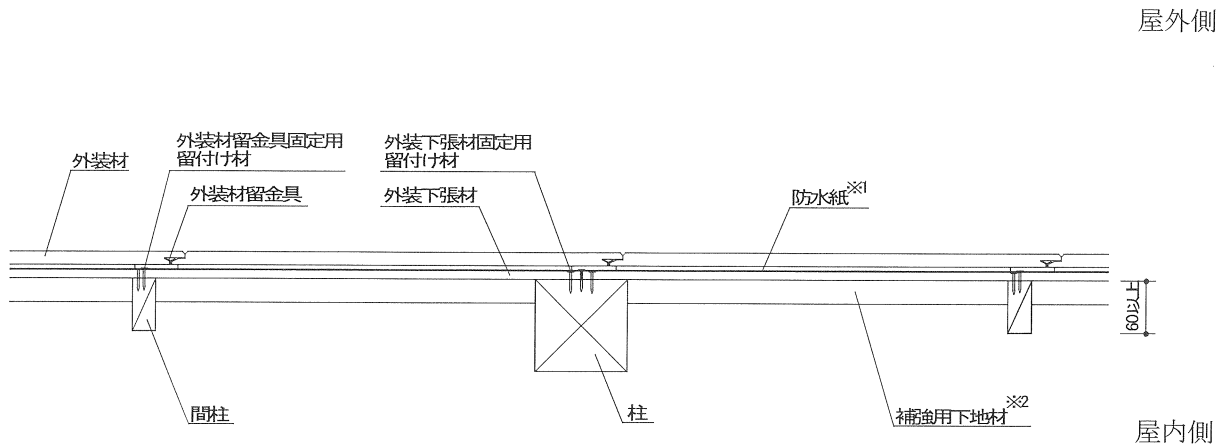
(単位：mm)



- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 補強用剛縁は、必要に応じて取付ける。
- ※5 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

②水平断面図

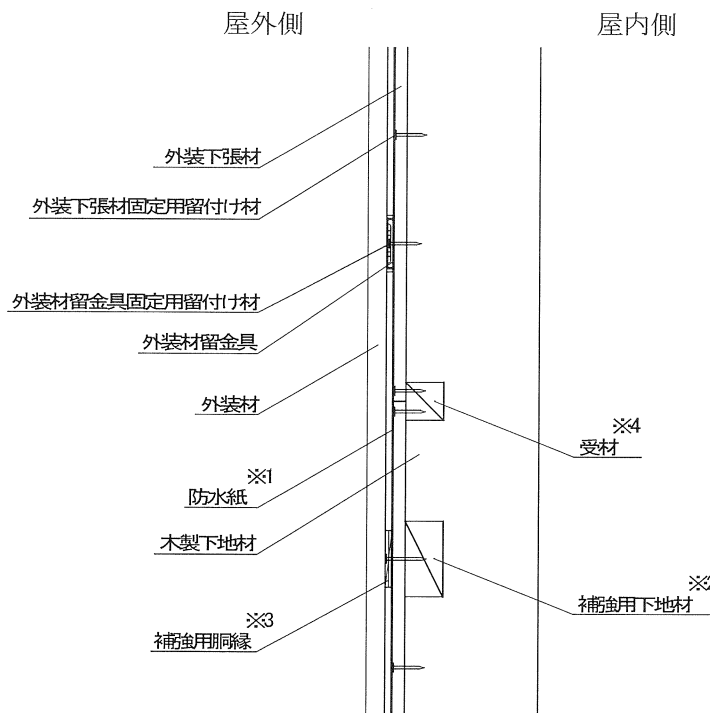
(単位 : mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

③鉛直断面図

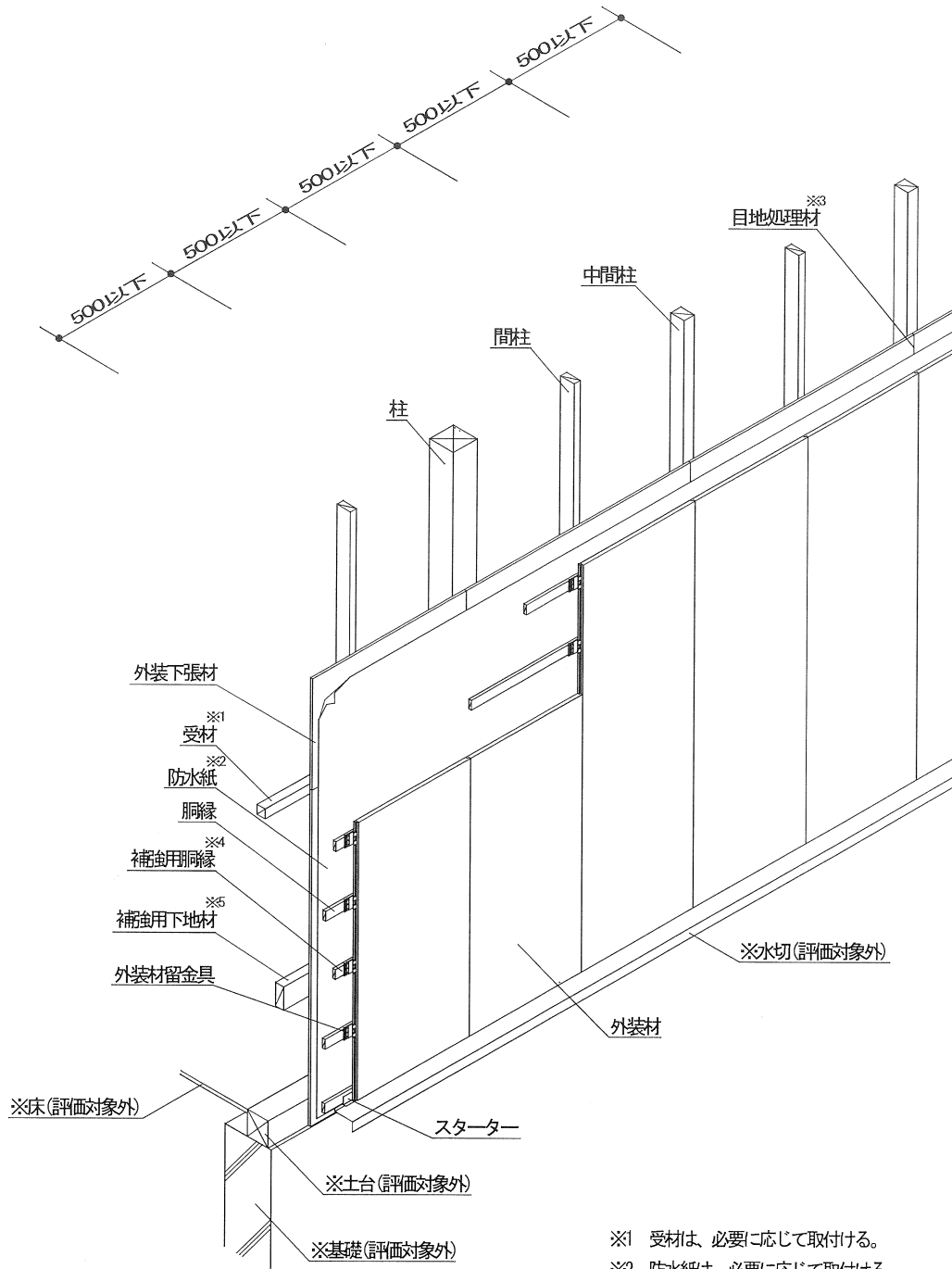
(単位 : mm)



- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※3 補強用胴縁は、必要に応じて取付ける。
- ※4 受材は、必要に応じて取付ける。

(2) 胴縁併用外装材留金具工法仕様
①透視図 (屋外側)

(単位 : mm)

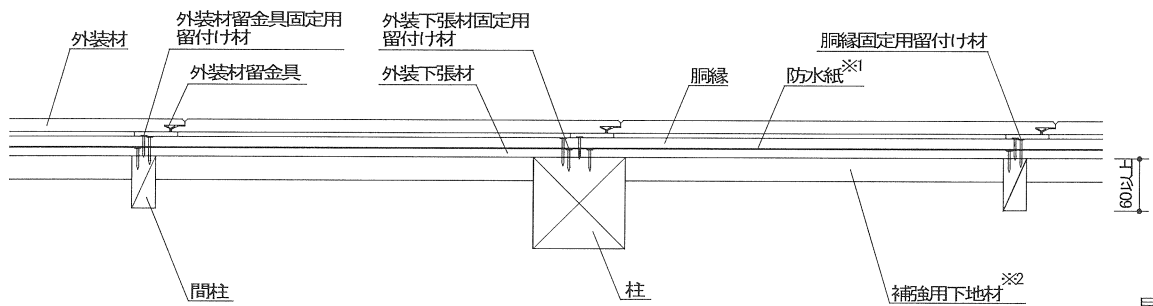


- ※1 受材は、必要に応じて取付ける。
- ※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
- ※4 補強用胴縁は、必要に応じて取付ける。
- ※5 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

②水平断面図

(単位 : mm)

屋外側



屋内側

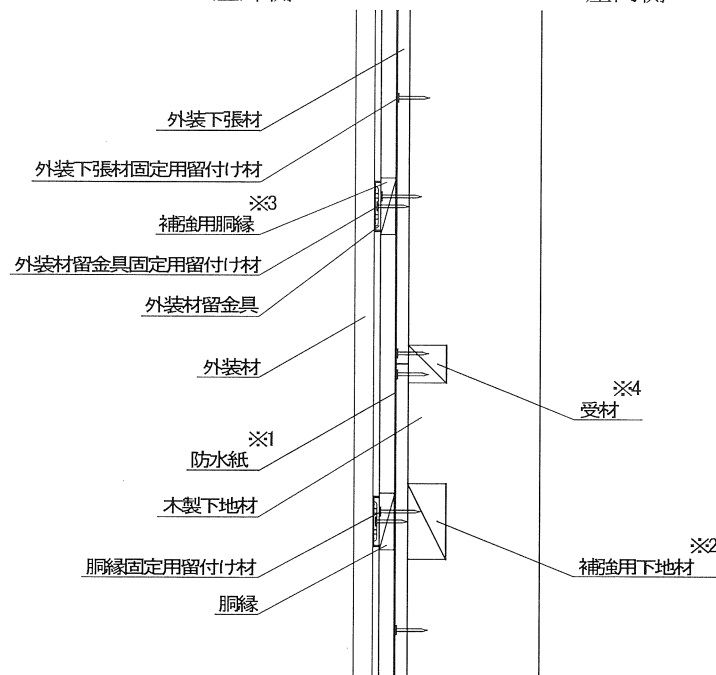
- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

③鉛直断面図

(単位 : mm)

屋外側

屋内側

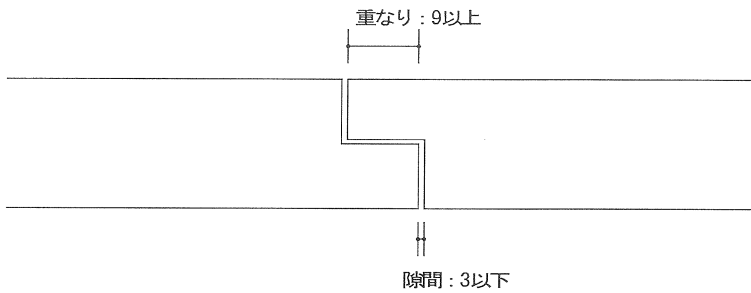


- ※1 防水紙は、必要に応じて取付ける。
- ※2 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
- ※3 補強用胴縁は、必要に応じて取付ける。
- ※4 受材は、必要に応じて取付ける。

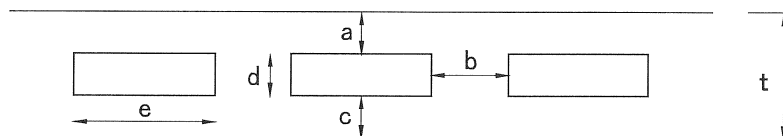
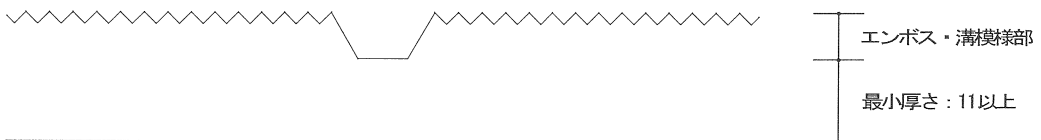
(3) 外装材の端部形状および断面形状の概略図

(単位 : mm)

①端部研削状



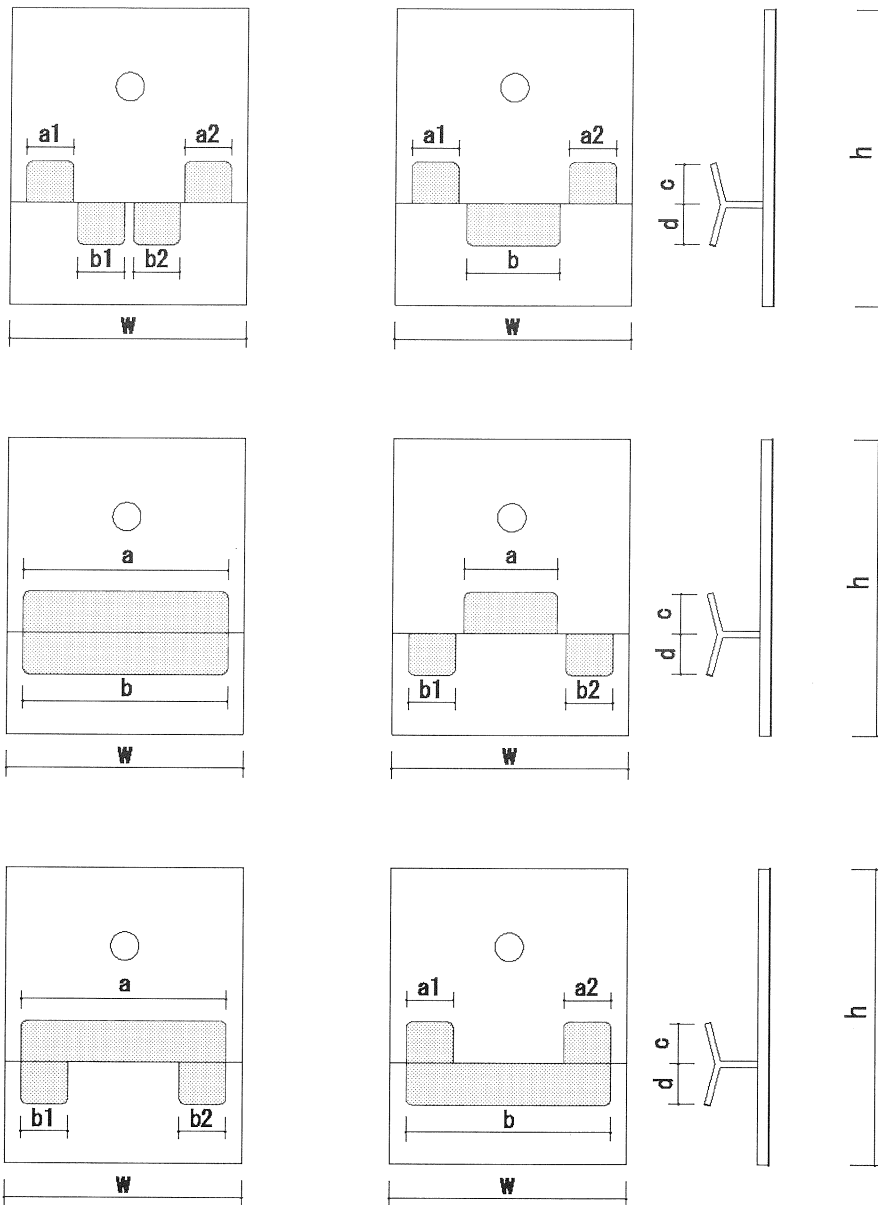
②断面形状



厚さ t	18以上
a	5以上
b	3.5以上
c	4以上
d	9以下
e	t 以下

(4) 外装材留金具の概要図

(単位 : mm)



記号	寸法
W	40以上
h	40以上
w+h	90以上

- a : 上部ツメの幅又は総幅 (a = a1 + a2)
- b : 下部ツメの幅又は総幅 (b = b1 + b2)
- c : 上部ツメの掛かり高さ
- d : 下部ツメの掛かり高さ
- ※ 上部と下部のツメの総掛かり代面積 : 170.7(±17)mm² 以上
- ※ (a×c) + (b×d)

5. 施工方法

(1) 木製下地材の組立て

柱を土台に取付ける。柱と柱の間に断面寸法が27mm以上×60mm以上の間柱を500mm以下の間隔で配置し、土台に取付ける。この時、外装下張材の縦目地部となる位置には断面寸法が45mm以上×60mm以上の中間柱又は柱を使用する。必要に応じて、受材を外装下張材の横目地となる位置に配置し、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で、片側1本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。必要に応じて、補強用下地材を、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で、片側1本以上、柱、間柱、中間柱等を取付ける。

(2) 外装下張材の取付け

外装下張材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、φ1.7mm以上×L25mm以上の鋼製くぎ等で、200mm以下の間隔で木製下地材に留付ける。必要に応じて、横目地を設ける場合は、高さ3,000mmに対して1本とする。

なお、外装下張材の目地部は、必要に応じて目地処理材を施し、平滑に仕上げる。

(3) 防水紙の仮留め

必要に応じて、防水紙をたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で外装下張材に仮留めする。継ぎ目の重なりは500mm以下とする。

(4) 胴縁の取付け(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に取付ける。)

胴縁は、幅40mm以上のものを500mm以下の間隔で、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で500mm以下の間隔で柱、間柱、中間柱等を取付ける(必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。なお、通気を考慮する場合、柱上で胴縁を切り離し隙間を設ける。

(5) 補強用胴縁の取付け

必要に応じて、補強用胴縁は、幅40mm以上のものを500mm以下の間隔で胴縁間に配置し、φ1.7mm以上×L25mm以上の鋼製くぎ等を用いて、3,000mm以下の間隔で柱、間柱、中間柱等に留付ける(必要に応じて補強用胴縁に下穴を開ける)。

(6) スターターの取付け

スターターを、φ3.0mm以上×L20mm以上の鋼製ねじで、1500mm以下の間隔で土台、胴差し又は胴縁等を取付ける。

(7) 外装材留金具の取付け

外装材留金具を、胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装下張材の表面に働き幅間隔で、φ1.7mm以上×L25mm以上の外装材留金具固定用鋼製スクリークぎ等を用いて、外装材を張付けながら取付ける。但し、通気層と同じ厚さの補強用胴縁を用いる場合、補強用胴縁には外装材留金具を取付けなくてもよい。

(8) スペーサーの取付け

必要に応じて、スペーサーをブチルゴムテープ等で胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装下張材の表面に取付ける。

(9) 外装材の取付け

外装材の張り方は縦張とする。外装材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、留金具にはめ込みながら張り上げる。取付けは、目地通りよく、不陸、目違いのないように行う。必要に応じて、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製スクリークぎ等を用いて、胴縁、補強用胴縁又は柱、間柱、中間柱等を取付ける。外装材を上下方向に継ぐ場合は、必ず胴差しの位置で行う。